

令和4年度第3回三浦市総合教育会議会議録

○日 時 令和4年11月21日（月） 午後3時00分～午後3時35分

○場 所 三浦市役所第2分館 第2会合室

○次 第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 報 告
(1)三浦市学校教育ビジョンについて
- 4 閉 会

○出席者（6名）

市 長	吉 田 英 男
教 育 長	及 川 圭 介
教育長職務代理	石 毛 浩 雄
教 育 委 員	石 崎 勇 吾
教 育 委 員	廣 瀬 牧 実
教 育 委 員	石 渡 博 幸

○説明のために出席した職員

教 育 部 長	増 井 直 樹	教 育 総 務 課 長	塚 本 孝 治
学 校 教 育 課 長	高 梨 真 一		

○事務局出席者

教育総務課教育総務グループリーダー	浦 西 伸 一	教 育 総 務 課 主 事	吉 田 かおり
-------------------	---------	---------------	---------

○傍 聴（9名）

○増井教育部長 定刻となりましたので、ただいまより、「令和4年度第3回三浦市総合教育会議」を開会いたします。

本日の会議の進行は増井が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項により、原則公開となりますので、御承知おきください。本日の会議開催にあたり傍聴希望者がおられますので入室の許可をいただきたくお願いします。

(傍聴希望者がおり議長(市長)に許可を受け傍聴者が入室)

○増井教育部長 報道機関より写真撮影の申し出がありましたので許可をいただくようお願いいたします。

○吉田市長 撮影を許可します。

○増井教育部長 改めまして、会議の主催者であります吉田市長から御挨拶をいただきます。吉田市長お願いいたします。

○吉田市長 皆さん、こんにちは。お疲れ様でございます。三浦市総合教育会議を始めたいと思います。

今日は学校教育ビジョンの関係でアンケート等の経過の報告をいただくこととなっています。色んな意見等を是非、よろしくお願いいたしますと思います。

○増井教育部長 ありがとうございます。

議事の進行につきましては地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4において、地方公共団体の長が総合教育会議を設け、また、招集することになっておりますので、吉田市長に議長をお願いいたします。

○吉田市長 それでは議長を務めさせていただきます。本日の会議は報告事項が1件となります。

早速ですが、報告の(1)三浦市学校教育ビジョンについて事務局から説明をお願いします。

○塚本教育総務課長 それでは教育部教育総務課から報告いたします。

学校教育ビジョンについては、令和元年に策定後、様々な意見をいただいております、アンケート調査を実施し、その結果を踏まえて学校教育ビジョンを見直すこととしておりました。

それに基づき、令和4年2月に教職員向け、令和4年6月に保護者向け、令和4年9月には市民向けアンケートを実施いたしました。すべてのアンケートは、不正、改ざんなどの防止のため、封入、シール貼り封緘をし、提出していただいております。

アンケートの概要につきましては、3つそれぞれの報告と、3つのアンケートのまとめ報告、

学校教育ビジョンの見直しについて、教育委員会が考察したまとめを報告いたします。

まず、教職員アンケート、資料1を御覧ください。

配布数は231名、回答数は226名の回収率は97.8%となっております。

期間中、休養等で回答できなかった職員以外、ほぼ全員から回答を得ることが出来ました。

結果として約6割の教職員が1学級あたり21人から30人の規模が望ましいと考えており、さらに約6割が全学年複数学級を必要と感じていることがわかりました。

しかしながら、令和4年度当初では、20人以下の学級が全56学級中21学級と、全体の37.5%を占めており、教職員が望む生きる力を育むために必要と考える1学級あたりの児童数と現状とでは遠い状況となっている。

次に保護者アンケートです。資料2を御覧ください。

現在小学校に通われている児童の保護者及び、未就学児の保護者、1,681名に対して配布をし、回答者数は781名で回収率は46.5%でした。

小学校の教育に重要視するものの設問では、「基礎的・基本的な学力を伸ばす教育」、「自尊心や思いやりなどの心を育てる教育」、「社会性やコミュニケーション能力を伸ばす教育」、「マナーや社会のルールを身に付けさせる教育」が必要であるという回答が多くございました。

どの程度の学級数が必要と考えますかという設問では、7～11学級の学校規模が望ましいと考える保護者が32.5%と多くございました。続いて、全学年複数学級が良いという回答が24.1%、1学年1学級が良いという回答が11.9%、複式学級でも良いという回答が11.4%という結果でありました。

また、仮に、小学校を統合する場合に、複式が見込まれる学校から段階的に統廃合を進めるという回答が65%で、緩やかに進めていくことが望ましいと考える保護者が多い結果となっております。

なお、1学年複数学級が良いと考えるが、統廃合には反対するといった回答が16.9%でありまして、その理由として、「登下校の安全策」のスクールバス運行や警察連携等を講ずることを選択した保護者が47%ありまして、登下校の安全確保が大きな課題であるということが確認できました。

また、自由記述欄にもスクールバスの運行などについて具体策を検討していく必要があるとの意見が見られたという結果になっています。

続いて市民向けアンケートについて、資料3を御覧ください。

令和4年9月に実施した市民向けアンケートについては、住民基本台帳に登録された、18歳以上の方、1,200名を無作為抽出し、郵送により実施いたしました。

この1,200名という数字の根拠については、統計学上の考えに基づきまして、三浦市の人口42,000人とした場合に信頼度95%以上という結果を求める場合に必要なサンプル数は、321人が必要ということが調べで分かりましたので、一般的なアンケート調査の回答率はおおよそ30%と言われておりますので、1,200人の30%で360人の回答が得られればよいという判断によるものです。結果として回答者数は401名で回収率は33.4%でしたので、信頼度は確保できた結果となっております。

アンケートの設問では、学校との関わりや学校の地域での役割、大切にすべきことなどを聞いた上で、統廃合についても聞いています。

その結果、「1学年2学級以上の規模になるように統廃合する」という回答が38.2%、「児童

の少ない学校から統廃合する」が23%、合計して統廃合を進めていく回答が61.2%でした。一方で、統廃合するべきではないという回答が18.2%でございました。

市民アンケートのまとめにつきましては、裏面の【まとめ】の(1)～(5)までに記述したとおりとなります。

続いて、教職員・保護者・市民の3つのアンケートのまとめになります。資料4を御覧ください。

アンケート回収率ほか概要については、先ほどそれぞれについて報告いたしましたが、こちらにまとめております。

①学校教育に重要視するものは、教職員・保護者・市民ごとに記述しておりますが、基礎的・基本的な学力を伸ばす教育については、保護者、市民から多くの回答を得ておりますが、教職員につきましては設問として選択肢を置いておりません。学校教育の基本事項であることを踏まえての構成としていることを御理解いただきたいと思います。

②望まれる適正規模についてですが、1学級の児童数については、21人から30人という回答が教職員、保護者の中で最も回答が多く、学級数については、1学年7～11学級を希望した保護者が32.5%、1学年複数学級を希望する保護者は24.1%でした。市民アンケートにおいてもクラス替えが出来る1学年複数学級が必要だとする回答が59.6%という結果でありました。

③解消すべき保護者の不安は、1学年複数学級が良いと考えるが、統廃合に反対する理由として、通学路の安全性が心配という回答が多く、自由記述欄においてもスクールバスの運行を希望する意見が多く寄せられ、今後、検討し取り組む課題であるということが確認できました。

④課題を解消しつつ必要と考える学校規模へでは、1学級あたり21人から30人が良いとしている中、この規模を維持していくのは難しい現状があると考えております。統廃合を考えた場合、段階的な統廃合をすべきという意見が保護者の65%、市民向けでも22.9%であり、配慮すべき事柄と考えております。

⑤学校施設の活用については、仮に学校として使用しなくなった場合にも、防災の拠点、地域コミュニティ活動の拠点として、市民の意見も反映しながら、三浦市全体で方策を検討する必要があります。とまとめております。

最後に、学校教育ビジョンの見直しについて資料5を御覧ください。

3つのアンケートまとめでは、①～⑤の項目により分析いたしました。これらをベースに見直し作業に取り組んでまいります。見直しの柱として示すべき事柄としては、(1)学校を適正規模にするため、子どもの教育環境を踏まえた、段階的な統廃合(2)登下校の安全確保のための具体的方策の提示(3)学校施設の有効利用における市民意見の反映の3つについて具体策を検討した上で、まとめていきたいと考えております。

改訂版三浦市学校教育ビジョンの策定は、令和4年度中にというスケジュールで進めてまいりますと考えております。

以上で報告を終わります。

○吉田市長 学校教育ビジョンについての報告は終わりました。

皆さんの御意見をお聞かせいただきたいと思います。

○石毛委員 教職員の方の意見、保護者の懸念材料、市民の方にとってはコミュニケーションの場所というようにアンケート結果については、想定内だったかなと思います。

ただ、どのように策定していくのかはこれからの検討材料だと思いますので、特に学校という場合は塾と違い勉強を教える場だけではないので、それを踏まえて人数的な面等や統廃合を考えていければと思います。

また、保護者や市民の方、賛成反対両者の方にとっても一番の懸念材料がスクールバスということはアンケート結果前から意見が出ていた状況なので、その辺はしっかりと検討していたらと考えております。

○石崎委員 やはり登下校の安全面というところが一番引っかかってくると思うんですけど、先週、学校訪問の時に校長、教頭との話の中で学校規模が小さくても教職員の校務負担は変わらなくて、子どもと接する時間が限られてしまうというところでは、複数学級を作って教職員のバランスとといいますか、教職員同士がコミュニケーションを取れるような環境が作ったほうが、子どもに対しても良い影響が出るのかなと考えております。

この教育ビジョンを進めていくにあたって最後にまとめてある段階的な統廃合、スクールバスの運行等を行うことが適正であるのかなと思います。

○吉田市長 学校訪問で教職員の負担がというのはどういうことでしょうか。

○石崎委員 学校規模が小さくてもやる内容、残業や校務が減るわけではなくて、同学年でクラスがあると2人で2クラスを見るという方向にいったほうが、子どもたちに対しても良い影響が出るという意見がどの学校からも意見が出てきたので、そのようなことを考えながら教育ビジョンを見させていただいて、最後にまとめた部分が適正なのではないかなと私、個人の意見として思いました。

○及川教育長 先週、学校訪問ということで、11校すべてを回って管理職の意見を受けての意見ということですね。

○吉田市長 学校規模の大小にかかわらず、というのはどういうことでしょうか。

大きくても、小さくても教職員の負担は変わらないっていうことを言いたいのですか。

○石崎委員 小さいほうが教職員の負担が大きくなってしまうということです。

○高梨学校教育課長 小学校と中学校には学校を運営していく上で、分掌といって教員が役割分担をしています。その仕事の数的には学校の規模に関わらずどの学校も変わらないので、小さい規模のほうが教職員の数が少ないので1人当たりの分掌の持ち分の数が多くなってしまいます。大きな学校ですと1人当たりの分担する量が減るという話かなと思います。

○及川教育長 規模が小さくなると1つの仕事量は確かに少ないんですけども、数を多く持たなければならなくなるとそれぞれに対して、準備や情報などを集めなければならないということがあって負担に感じるということですね。

○廣瀬委員 私もアンケートの結果、自由記述にも書かれていますけれども、登下校、通学路の不安というのが浮き彫りになったのかなと思いました。具体的な策を提示と書かれていますけれども、具体的なことを打ち出して安心安全なことを得ていく、やはり安心安全でない子どもたちを通わせることが不安になりますから、そういうことをまず第一にやるべきことかなと思いました。

先週学校訪問にも行かせていただきまして、各学校の実態や課題を直に聞くことができましたけれども、すごく学ぶべきところが多くありまして、単級の学校でもメリットもデメリットもあるんですけども、国が打ち出している高学年の教科担当制は国が推進しているけれども、三浦市のように単級ではとても苦勞して実施しているというようなこともお伺いをして、やっぱりそういうことが機能していくことは指導力の向上、子どもたちの多面的な児童の理解ということにも繋がっていくことがあると思うので、このような実態をもっとアピールしていくべきかなと、私自身も知らなかったことなので、教育ビジョンに対しても理解が深まっていくかなという風に思いました。

○石渡委員 私も現場を離れて6年経ちますが、久しぶりに学校訪問をさせていただいて、やはり現場にいたときよりもかなり小規模校化が進んでいるなと肌で感じました。その中で先生たちが一生懸命努力されて子どもたちのために、教育効果が上がるように努力をされていることに敬意を表したいなと思います。

アンケートの中にも表れていましたけれども学校運営、先生方が教師力を高める、子どもたちがともに学び合うという中で言えば、教育ビジョンとして出されたことは、非常に妥当かなと思います。特に色んな意味で、色んな実態を踏まえながらやろうとしている姿はありがたいなと思いますので、今までどおり学校に寄り添って、学校教育ビジョンとして進めていただけたらと考えております。

○及川教育長 今回改めてアンケートを取らせていただいて、色んな意見があるということについては改めて確認することができました。

やっぱり多くの方っていうのは、未来を担う子どもたちの学びをより充実させて、その質を向上させていくためにはどうやったらいいのか、学びの内容、学ぶための規模についても、今、そしてこれから学校が小さくなっていくことについてかなり心配されているのかなと思います。

そういうことを受け止めながら子どもたちの学びを充実させていくための学校がどうあったらいいのか、今回の結果を十分に踏まえながら学校教育ビジョンを見直していきたいと考えております。

○吉田市長 事務局に聞きますが、前回、学校教育ビジョンを作る前にアンケートをしました。今回の教育ビジョン見直しのためのアンケートとの違いはありましたか。

○塚本教育総務課長 平成 28 年にアンケート調査を実施していますが、その時は圧倒的に 1 学年複数学級が良い、90 数パーセントの回答を得ていました。今回のアンケートでは、特に保護者のアンケート結果ですけれども、1 学年単学級が良い、複式学級でも良いがそれぞれ 11% ずつでしたので、小規模校を考えている親御さんの回答が多く得られたという違いがあります。

○吉田市長 前回の平成 28 年のアンケートというのは、保護者が中心になっていたものですか。

○塚本教育総務課長 保護者と教職員です。

○吉田市長 いわゆる学校教育ビジョンを公表してさまざまな議論を経て、多くの皆さんの意見が公に公表されて、学校の在り方というのを保護者、教職員の皆さんも関心を持ってくれるような傾向があったという風に感じていますか。

○及川教育長 今回、アンケートの聞き方として、前回よりも少し細かく聞いた部分があるのかなと思います。ですから、規模についても色々な数字が出てきているのかなと思うんですけども、目指す方向としては同じ方向として捉えていいのかなと思っております。

ただ、適正な規模にしていくためには課題があるということも明確になったと思いますので、そこについては、やはり子どもの学びのためでありますので、そこは大人の責任としてどう解決していくかということ、知恵を絞って対応していく必要があるということ、これを改めて感じました。

○吉田市長 わかりました。

アンケートの結果で事務局が言ったような傾向が見られた、いわゆる絶対的に複数学級が良いという意見が大多数を占めた状態から、少人数でも十分まかなえるのではないかという意見もあったことを踏まえて、保護者や教職員の皆さんも学校教育ビジョンについて色々な情報に触れる機会も増えてきたらうし、学校側でも具体的な検討をするような動きになってきたというのはすごくいいことだと思います。

やはり最後に学校教育ビジョンの見直しについてのテーマを 3 つ具体的な検討に入っていくにつれて絞ってきたと思うんですけど、実際に複数学級を望んでも現実にはできない、そこをいかにしていくか、地域の実情や学校の形態も考えながらやっていかなければならないというのが、少しアンバランスなところがあります。複数学級が実現できる人数ではないのに、無理矢理複数学級にするのはどうかと思うし、通学の問題やそれぞれの学校の事情もあるのでそのようなことを考慮すると段階的な統合をしていったほうがいいんじゃないかということが今回のまとめになるんですけども、それを踏まえて今後、具体的な検討に入っていくようにしたいと思います。

そのことについては教育委員の皆さんにも色々御意見をいただいて、一番心配されるのは通学の安全の確保になりますが、このように通学の安全を確保する手段を講ずるので、段階的な統合を進めていきますというような具体的な案をお示ししないと御理解いただけないと思いますので、そのようなやり方で行っていかうと思います。これから年度内に一定の方向を出していきますので、御意見をいただきたいと思っています。

3番目の学校施設の有効利用における市民の意見反映というのは、例えば、統廃合を検討していく中で学校施設についての案を統廃合のスケジュールの中に明記することはできないと思っています。というのは、学校は市の財産になりますので市として検討していきますので、子どもたちの教育と学校施設の利活用というのは別に考えようと思っています。

例えば、住民の防災拠点が必要であるということは、学校教育のレベルではないので、それは市としてオール三浦市役所で考えます。そこを教育委員会が踏み込んでいくと次のステップまで考えなければならなくなりますので、学校教育を中心に子どもたちのためにはどうしたらよいかということでスケジュールを組んでいければと思っています。それに対してはいかがでしょうか。

○石渡委員 現場を含めて、教育委員会のさまざまな取り組みの中で行われてきますけれども、やっぱり施設利用ということに関しては、子どもたちのための教育とは切り離したいというお考えは、もし私が現場にいたらそのように思います。

そういう意味でまず教育委員会としては、クリアしなければいけない課題を明確にしながら、市と寄り添いながらそうした施設利用の具体的な部分については、市にお任せして示唆をいただきながら進めていくべきものだと考えます。

○吉田市長 それでは、資料5の学校教育ビジョンの見直しについての今後の基本的な考え方をお示ししていますので、これに沿って、アンケートの結果等も踏まえながら具体的な策を出していこうと思います。

資料5の(3)に記載の学校施設の有効利用については、市民の皆さんや地元の皆さんに改めて聞かなければなりませんので、教育ビジョンの見直しと繋いでいくというのは難しいと思いますので、また別の視点で考えたいと思います。

庁内でも施設利用のプロジェクトについては立ち上がっていますので、そこでも意見を出してもらって検討していくことになると思います。財務の問題も影響してくると思いますので、これは総合教育会議での私の意見として今後、進めていこうと思います。

そのほかよろしいでしょうか。

(発言等なし)

○吉田市長 ほかになれば、(1)三浦市学校教育ビジョンについては終わりたいと思います。それでは予定していた議事は終了しましたので、事務局に進行をお返しします。

○増井教育部長 ありがとうございます。

以上を持ちまして、本日の総合教育会議を終了いたします。ありがとうございます。

◇ 午後3時35分 閉会 ◇